

一、信濃地名考に物臭太郎生長の地なる信濃國新江の郷は筑摩郡新村にして物臭太郎の墓は安曇郡保高神社の邊にある由見えたり。然るに

二、信府統記諸社記穗高神社由緒の條に、該社は信濃國司物臭太郎が造營せしものにて末社なる若宮大明神は太郎を祭れるもの由見えて墳墓のことなし。而して

三、善光寺名所圖繪に筑摩郡三の宮沙田神社は物臭太郎の勸請にて太郎の塚は新村にあり其隣村なる栗林村には太郎が信濃國司となりし後其乳母を祭れるお乳の宮と呼べる神社あるよし見えたり。

四、松本なる古老の説に多賀明神には物臭太郎を合祀し、淺井權現には太郎の妻を合祀しありと云へり。蓋し多賀淺井二社共に近國の名神なり。太郎夫妻の勸請なるにより合祀せる歟。

以上に依りて之を觀れば、物臭太郎は小説假設の人物にはあらず、古昔信濃國司として神明を崇敬し、人民を愛撫し、死後夫妻乳母共に祭られたる偉人にして、物臭太郎は其綽名なることを知る、果して綽名なりとせば其本姓は如何先づお伽草紙より次第に之を説明せん。』

物臭太郎又は懶太郎と題する草紙に三種あり、普通なるは元祿の頃出版のもの、次は近年澁山人の筆になるもの、次は松本の市在に寫本にて傳ふるもの是なり、松本の市在にて縁遠き男女が一本を寫し奉るべければ、早く良縁を授け給へとか、又は少壯男女か其戀愛せる人に添はしめ給へ一本を寫し奉るべしと多賀明神に祈願すれば、不思議の僥倖ありと稱し轉々傳寫せるものを云ふ。之れ最詳密なり。』

扱其傳を彼是參照して概言すれば下の如し。太郎は幼にして孤兒となり、新江の郷人に寄食せしが其志尙こそ高潔なれ、行爲は頗る懶惰なるにより物臭の名を得たり。十七八歳の頃國司二條大納言

有季に従ひて京師に入り、同人に給仕せしが、數年の後暇を得て國に歸らんとする時、一の美人を戀慕し、太郎の天性和歌を能くするにより、終に其美人の婿となりたり。美人太郎を沐浴せしめ、衣冠せしめ、教ゆるに禮法を以てせしかば、汚衣垢面野鄙の男子は一變して鮮妍都雅の公子となり、其疎懶の性は化して敏捷の人となり、後には和歌によりて時の天皇に拜謁するの榮を得るに至れり。天皇太郎の常人にあらざるを思召され、信濃の國司に命じて血統を糺されしに、仁明天皇の皇孫なる證左ありたり。太郎は仁明帝の皇子二品中將が信濃に流されてありし時、善光寺の如來に祈請して擧げられたる子なるが、父母共に薨逝せられ、三四歳にして孤兒となり、乳母に育はれてありしも、乳母亦歿せしより終に零落し、七八歳の頃乞兒となり、路傍の小屋にありしを、新江郷の地頭左衛門尉信賴と云ふ人見て之を憐み郷人に命じて養育せしめたるが、郷人太郎の懶惰を厭ひ、國司

有季の給仕として上洛せしめし者なること知れたり。天皇よりて太郎を信濃の國司とせられしかば、太郎は錦を衣て故郷に歸り、初志の如く壯麗なる邸宅を構へて之に居り、富貴歡樂琴瑟和合子孫繁榮したりと云ふにあり。

右の傳記によりて類似の人を求むれば、物臭太郎は源進なるが如し。文德實錄、三代實錄、皇統紹運錄等によりて考るに、仁明天皇には十五皇子座しまし、其内文德光孝は帝位に即き給ひ、六皇子は親王となり給ひ、他の皇子は源姓を賜はりて臣列につき給へり。十三皇子中信濃に來られしは二品大將源多一人なりとす。又仁明の皇孫にして信濃國司に補せられしものは、興基王と源進の二人なれども、興基王の御父彈正尹康親王には信濃に下られし事跡なし而して源多には子四人ありて進は其第二子なり、蓋し父の多上洛の時妾腹などの故を以て信濃に遣し置かれしものか。

さて源多は文徳天皇の天安二年正月信濃守となりて下降、三年の後上洛あり、後二十六年光孝天皇の仁和二年二月、源進信濃權守となる。されば太郎傳の三四歳にして孤兒となり、十七八年にして京師に上り、二十二歳の頃美人の婿となり、後信濃國司となると云ふに觀れば、年代最も能く符合す。又太郎傳の國司二條大納言有季は、紀大納言有常ならん。有常清和天皇の貞觀中信濃守たり。其任限貞觀の末年にあり、是亦符合せり。二品大將源多を二品中將某とし、紀大納言有常を二條大納言有季に作るが如きは、お伽草紙の如きに免れざる所、亦責むべきに非ず、或は憚る所ありて故意にせしか。只疑ふべきは父母共に薨逝せられたりと云ふの一事なり。源多は陽成、光孝の朝に右大臣たり、蓋し父子對顔命名の事ありて後信濃國司とはせられしならん。嗚呼「仁明の皇孫」この一言により信濃國司源進の綽名物臭太郎なることを知る。然れども信濃權守源進と云えば

精神的
物を作る
とす
る事

世人復之を知る者なくして物臭太郎の綽名のみ童話となりて千古に傳ふ、抑も亦奇なる哉。
 氏子の輩の精神的製作品の如きは社の寶物とし之を成るべく一般に周知利用せしむる方針をとる事扱又餘談に走つたから本論に返る。精神的勞働は神様相手にするものでなくてはならん。天地神明に誓つてやる位でないと行かんと思ふ。嘗て伊勢の大廟を拜した時に宮崎文庫を見た。其時大鹽中齋が洗心洞割記の版本で第一に刷つた紙を以つて綴つた書物を大廟に奉納したものを見て中齋の心事を如何にもゆかしく感じた。夫れから思ひ付いた事である。氏子の者共で精神的の製作が出来た時には、之れを神庫へ納むる様にすれば之亦大した寶物となる。寶物は單に弓や矢計りではない。戰國時代の寶物は弓矢であつたらうが大正の寶物は書籍や化學工藝品であつて差支ない。寶物も大に變遷して來る、夫で第一に作つたものを神寶として

氏子の者を奨励するに限る。夫から書物の如きものならば、又氏子の者をして讀ましめてもよいと思ふ。

地方改良及思想開發の爲めに隨時貢獻する事之は何も神官に限つた事ではないが、内務省の神社局長の井上博士は熱心なる地方開發奨励家であるから神官の人達は之を爲すのに都合がよい大に便宜がある。何でも此目的に副ふ事は大にやるべしである。

神道一般に通ずる經典。祓とか神祇省の古事とか云ふものでも集めて何か造つて神道をして實質あるものとしてくれるならば結構である。

此等の事でも始めて呉れると神社のいやちこになる事は受合である。又夫れと共に社會の教育も大に出来る譯となる。次に轉じて佛敎家の事を見ん。

四〇 佛敎家に御願

日本は又佛敎の國であると云はれて居る。併し國民は佛敎を信奉して居るのであるかと反問すると如何。信じて居る者もあれば信じて居ない者もある。眞宗丈けは確に信者があると云へる。けれども其他の宗旨に至つては信じて居るのか、信じて居ないのかサツパリ解らぬ。曹洞宗の家では曹洞宗の僧侶に來て貰つて曹洞宗らしい戒名をつけて貰ふ。淨土宗は淨土宗、眞言宗は眞言宗、何宗であつても死んだ者に役立つ僧侶許りであるかの感がする。これであるから佛敎の將來を見ると實に危機に濱して居るとも云へる。天理敎、金光敎、蓮門敎の如きものが漸々と勢力を得つゝあるのは確に佛敎を傳道すべき僧侶が活動をしなからである。僧侶は死人の前へ行つては三寶に歸依すべしとか何とか云ふて居るが、吾人は今の様な僧侶であつて

は、之に佛とか法とかと同一の待遇を與へ得ぬ。尤も佛も法も解らぬから或は三者同様に敬意を拂はぬのかも知れん。之も要するに僧侶が其活動を爲さぬからである。茲に至つて吾人は宗教なき日本の將來を頗る心配する。宗教なき國民は眼前の打算から萬事をやる、少くとも一生涯位の處に目安を定めて居る。従つて遠大でない。遠大でないから長持がせぬ。飽きつばい、風船球の様に風の模様によつては何處へでも飛んで仕舞ふ。大に警戒すべきは國家の將來である。

形式ながらも日本が佛教國であると云はるゝ迄になつたのは是迄の僧侶が相應に活動したからである。聖德太子は云ふに及ばず、行基、弘法、降つて日蓮、親鸞と云ふ様な大人物が大に活動したからである。又此等の大人物を中心として中人物、小人物が大に活動したからである。無名の僧侶が活動して居たからである。然るに現在の僧侶は如何と云ふに、徳川時代に耶蘇教排斥の結果、非常なる保護をうけたので

從來の僧侶と文明

僧侶の爲すべき事

眠つて仕舞つた。僧侶が眠れば國民の宗教心も亦従つて眠る道理で、宗教界は情氣を以て充されて來た。禪僧でも出て來て大喝一聲其眠を覺まさせなくてはならない。之と共に大に社會教育に努めさせなくてはならん。然らば僧侶の爲すべき社會教育と云へば何かと云ふに、宗教教育は勿論其一であるが、地方開發の業亦其一である。蓋し地方開發の業も宗教教道の實質であるからである。葬式僧侶ならばテ、ンで此等の事を顧みなくても、夫れでもよいが、苟くも日本の國土に生れ日本の御恩を受けて居る以上は、如何に僧侶の身であつても、日本の爲めに努めなくてはなるまい。扱僧侶の仕事と云へば何であるかと云ふに、余は次の事共をやつて貰ひたい。

- 一 佛教の如何なるものなるかを簡單に知らしむる事
- 二 宗教の信仰をして社會の狀態に順應せしむる事
- 三 佛典を平易に解し得せしむる様になす事

四 宗教家の盡すべき社會事業に關する知識を與へ僧侶信者を

して其志を遂げしむる事

佛敎の如何なるものなるかを簡単に知らしむる事 佛敎は云ふ迄もなく佛の敎である。釋迦如來の敎である。然るに釋迦が如何なる人であり、成道後如何なる事をしたのであるか、信者たるべき者は之をも知らずに信ずる事は出來ない。兵隊の訓練でも右向け右とか、前へオイとか云ふ號令によつて動くのであるが、夫れは小隊長とか中隊長とか云ふ上官からの命令である事を知つて動くので、唯聲丈けで動くのではない。兵隊の後へ行いて子供が徒に、前へオイと云ふても動くべきものではない。又動く様な兵士であつては仕方がない。之は號令をかける人は斯様斯様な人で、斯様な命令が出ると、斯様にすればよいと、平生からよく知つて居るから、大々的な戦争行爲も出來るのである。然るに佛敎は如何であるかと云ふと、お釋迦様は如何なる人で

あるかをよく知つて居ない。余の如き小さい時に寺へ甘茶を貰ひに行つたものである。そして此日をお釋迦様と呼んで居た。夫で一つ不思議に思ふて居たのは、人は生れて死ぬのであるが、お釋迦様は毎年死んで夫れからすぐに生れるものであると信じて居た。夫れは二月八日に死んで四月八日に生れるからである。其信ずる事を人に其儘話しても少しも改めてもくれなかつた。斯様な時に僧侶が子供を集めてお釋迦様の生れた時は斯様斯様で天上天下唯我猶尊と云はれたと云ふ事とか、生れた日を信者たるものが記念するのであるとか云ふ事、釋迦に關するお伽話でも澤山であるから之れでも仕て呉ると余が持つて居た如き誤解を持つ者は殆どなくなるであらふ。先づ釋迦が佛になるとは如何なる事であるとか、定に入つたとは如何であるとか、簡単な事を教ゆればよい。家庭に於て釋迦の傳記其他を教ゆる事を忌む様な家庭、假令ば基督教の信者の子供とか、或は其他の理由によつ

知りたき
釋迦

て之を知らず事を快しとせぬものならば仕方がないが、然らざるものは面白い繪を見せるとか、面白い話をすればよく集るものであるから、近世科學の思想と矛盾をせぬ様に釋迦傳記位を先づ小供に知らせる様にして貰いたい。此偉人たる釋迦如來の仰せは斯様であると云ふ様に知つて行くと、大分信仰に近づけ得ると思ふ。余の如き實際の生きて居た當時の釋尊の事が知りたくてならん。六つかしい説法の如きは大に困る、偉人物には其前へ出ると自然に化せらるものであるから、唯其人物を知る事の出来る丈けのものに接したいとは思ふて居る。信仰を得る階梯としては斯様なもので澤山である。小學校の教師でも中學校の教師でも宗教が如何なるものであるかと云ふ事を知らずに盛に攻撃する人があるが、あれは大なる間違である。義務教育の中へ宗教の教理を説いて聞かす事は出来ないが、矢張宗教はなくてはならんものである。併し現在の佛教僧侶は宗教が必要なるものでなく

釋迦の説
法

宗教は社
會本位

てはならんものである事を周く知らず事をせぬ。之で其責は僧侶が最も多く受けなくてはならん。夫は兎に角先づ僧侶たるものは釋尊の事を説いて其次には便宜釋尊の説かれた所を説いて行く様にすればよい。今頃の小供に向つて無常涅槃等と云ふ事を説く様な事はせず、佛教聖典中の心掛け位の所から説いて行けば、教育敎語とも戊申詔書とも少しも矛盾せず、佛教が説けるものと信ずる。○宗○教○の○信○仰○を○し○て○社○會○の○状○態○に○適○應○せ○し○む○こ○と○。○佛○教○は○本○來○應○病○與○藥○と云ふて、病人があれば其病氣を直せばよいのである。強いて打たゝいて病人にして、夫から藥を與へる必要はない。然るに人の宗教を説くものは盛に煩悶を奨励する傾がある。之れは怪しからん事と思ふ。印度の様に難行苦行を盛にやる様な處では、夫相應の説法をし、又日本の様な所では日本に相應した説法をせらるべきである。従つて今日日本へ釋尊が生れたならば、昔印度でやられた様な説法を爲

さるゝ事はない。今の日本は無常とか何とか云ふ悲観をする人は少ない時代である。悲観をしてはならん。勇猛心を出して活動せなくてはならん時代である。で釋尊ならば定めし大に奮闘をすゝめると共に、心掛けを一々説いて聞かされるであらふと思ふ。印度でも戦争をする心掛を説かれた事もある位である。余は確に云ふ。日本の現在に於て釋尊が降誕せられて、既に成道して居られたならば、矢張三世輪廻の事をも説かるゝであらうが、人をして健實なる思想の上に大に活動せよと云はるゝと信ずる。そして又通俗なる知識の普及、田園娛樂機關の完成、富力の増進、自治體の開發等を奨励せられるであらうと思ふ。如是我聞一時佛住などと云ひながら、立派な織物を強いて切つて、夫れを又わざゝ縫合はして殊勝らしく珠數を爪遣つて居るのを見ては必ずや佛敵だと思はれる事と思ふ。日本の要するものは健實なる思想である。活動力を大に増す事である。此等の缺點を除くの

日本に於て
迦た出た
來たなら
ば釋

が日本の現代の要求である。佛教亦此點に藥を投ぜねば何等大なる價值なきものとなるであらう。

簡易なる
佛典

佛典を平易に誦し得せしむる様になす事。我々日本人はバイブルの日本譯を讀む事は出来るが佛典の日本譯を讀む事は出来ん。阿彌陀經や觀音經の漢譯の假名交り文にしたのはやつと近頃になつて出来た様だ。或は昔からあつたのを余が知らなかつたのかも知らん。兎に角餘り譯山に普及して居ない。佛の教を實際日本へ傳へなくてはならんと思はるゝならば、佛典の内重要なもの丈けは日本人に讀める様にする必要がある。或は既に漢譯があるから之を和譯する必要はないと云ふかも知れん。併し夫れは宗教の一手專賣をやらんとするものゝ嘘言である。煙草や鹽の專賣でさへも、專賣以前に比較すると非常に弊が増したのではないか。況んや宗教をやだ。大藏經の出版誠に結構であるが、讀めぬ大藏經の出版は持腐りになる寶を作る

二〇六
 様なものだ。猫に小判だ。猫に小判と云へば普通の人は猫が小判を知らぬのを笑ふかもしらんが、夫れは怪しからん事と思ふ。猫は餓て死なんとして居る。之に與ふべきは飯か鼠である。黄金ではない。大醫王たる釋尊の與へんとするものは、矢張黄金ではない。飯か鼠である。佛教界の先輩が日本人に向つて經典の專賣をせんとするのは、救ふべき猫を見ず殺す様なものである。先般余の所へも大日本佛教全書を刊行すると云ふ、佛書刊行會の會員募集が來た。見本の中を見ると次の様なものがある。釋尊が出世をして之を見たら、自分は斯様な事をせよとは決して云はない。日本の佛教の振はざるは斯様なものを流布させるからだと云はれて、定めし焼いて仕舞はれるであらうと思ふ。

維摩經疏菴羅記卷第一

東大寺沙門 凝然述

夫維摩詰經者、上乘高勝之妙典、大衍廣蕩之法門也。深微深奧、超言談之境界、奇標奇特、出測量之限域。峯岑拂雲、龍氣之勢不及、涯底入風、竭魚之力無觸。言所說則不可思議、解脫法門、論所談則無礙、無方自在。句義納須彌於芥子、不壞大小。寄江海於七日、無動長短。借坐於燈王、示廣狹無壅。請飯於香積、彰法忍通塵。菴羅樹蘭寶積、獻珍蓋毗舍離城。維摩居丈室、寶蓋遍大千。影現淨土、丈室集十地。演暢不二、以無住爲諸法之本。以同塵爲果後之用。室內諸品、窮大法之玄致。室外衆篇、罄教主之化儀。斯廼抑小揚大、瑩一乘之器。褒圓析偏、練三佛之因。大教深致、不得而可稱。上行妙宗、豈可得思議乎。此經傳譯漢地已後、造疏述章、解文立義、古來非一。隋代最多。僧肇法師有註經十卷。天台有淨名六卷。亦作疏二十八卷。而有餘分功業未終。荆谿禪師、簡約以爲十卷。名爲略疏。嘉祥○祥大師、作淨名玄論八卷。有五卷略疏。有六卷廣疏。慈恩大師、有六卷疏。

釋玄奘三藏新譯無垢稱經同經贊六卷。出法相宗錄。天台嘉祥釋羅什三藏所譯舊本。今日本國上宮太子釋羅什本。陳其幽致。此維摩經。翻傳震旦。朝經五代。譯成七度。六譯是舊本。一譯是新本。第一後漢代沙門嚴佛調譯。古維摩經二卷。開元錄一云初出。與唐譯無垢稱經等同本。見古錄及朱士行漢錄。上又云沙門嚴佛調亦云浮調。據僧祐錄及高僧傳。合是沙門長房等錄云。恐衍云清信士者非也。臨淮郡人。綺年穎悟。敏而好學。信慧自然。遂出家修道。通譯經典。見重於時。調以靈帝中平五年戊辰。於洛陽譯濡首菩薩等經五部。已言五部者。濡首菩薩無上清淨分衛經二卷。惠淨菩薩問大字。善權經二卷。古維摩詰二卷。思意經一卷。菩薩內習六波羅蜜經一卷是也。云々

宗教家と社會教育

宗教家の盡すべき社會事業に關する知識を與へ僧侶信者をして其志を遂げしむる事。僧侶も信者も盡すべき仕事は澤山ある。社會は缺陷だらけである。惡人は盛に飛廻つて居る。然るに翁様媼様の南

無阿彌陀佛と葬式の外に何事もせないと云ふのは、要するに其方面に關する知識が無いからである。僧侶が衆議院の總選舉に際して賄賂は取るべきものでない事を信者に充分に知らせさへすれば、夫までも賄賂を取つたり投票賣買をしたりする様な事も大に減ずるであらふ。佛敎界の先覺者は社會事業に關しても相應の知識を傳達しなくてはならん。

斯く見ると葬式法會追悼會以外に、僧侶が爲すべき事は實に多い。冥福を祈るよりも現在の幸福を與へる事に努めて貰いたい。

四一 町村長に御願

町村長の方針は其町村の大体の方針となる場合が多い。勿論常に左様ではないが、町村長の方針如何では、其町村を開發する事も出來れば、又衰微さす事も出來る。町村出身の教育ある者で一家に引籠る必

町村長の社會教育

要のある者の如きは、宜しく其町村を提げて行く考にて、大にやつて貰いたい。町村が進歩すれば日本は夫れ丈け進歩する。町村が疲弊すれば日本は夫丈け疲弊する。町村の疲弊と進歩とは其中心になる人物の活動如何によつて定まるのであるから、此等の人物が日本の將來を左右する様なものである。左右する人が活動をすれば日本は活動する。其人が睡れば日本は睡る様なものである。小學校教師と町村長は國民の將來を左右する。大に努力して貰ひたい。扱町村長にして社會教育の上に手を着けて貰ひたい事は次の數項である。

- 一 お伽噺巡廻文庫
- 二 講談巡廻文庫
- 三 新聞縦覽俱樂部
- 四 通俗教育の幻燈會
- 五 衛生講話會

六 名士招待講演會

七 其他補助教育の設備

お伽巡回文庫 之に要する費用は五圓で澤山であるから、小學校を卒業した位の者に利用さす爲めには是非之を設けて貰ひたい。町村費が如何に窮して居ても之位のものは何でもない。併し餘り馬鹿氣たもの、様であるから、町村長の方で氣はづかしくて持出せなければ、小學校の先生から盛に要求させればよい。そしてあの様に云ふのであるからと云ふて、夫から之を拵へてもよい。村落の巡廻文庫は最初は之に限るのであるから、是非とも作つて貰ひたい。事によれば會員を組織してもよい。けれどもかくすれば貧民の子弟は困るであらふから、是非一般が共同に使用し得る様にした。夫で愈、金に困れば其時は村の有志家に少し宛の金を出して貰つてもよい。兎に角やつて貰ひたい。全然失敗に終つた處で五圓の金である。

講談巡回文庫 前の者が出来上ると第二に設けられたいのは之である。之も二三十圓で幾分の本は買ひ集められるから是非設けて欲しい。歴史の講義や倫理修身の話よりも講談の方が却つて人の心を動かす事が大である。尤も講談もよいもの許りではないから、之を作るとすれば其中から適當のものを選ぶ必要がある。併し金を澤山掛けずに之を設けるとすれば、近代の作にかゝる五十錢とか八十錢とか云ふ高價のものを買入れる事の考ふべき事は既に之を明記した。

新聞縦覧俱樂部 學校の一室とか寺の一室とか、其他公共の用に供するに都合のよき所を一所かりて、俱樂部を設けて其處で夜は集まつて面白い話をしたり笑つたりする様にすれば、地方では面白からうと思ふ。尤もよくある事であるが、男女が集まるとなると風俗を紊がちであるから、此俱樂部は男子許りのものとしなくてはならん。茲には新聞位は備付けなくてはなるまい。又土俵を作つて置いて相撲を

取る様な事も常にやつて欲しい。此俱樂部は村落の中央部で便利の處にしなくてはならん。茲で又義太夫の稽古位はしても宜敷からふ。普通教育の幻燈會 府縣や郡の教育會位には大概教育資料の幻燈はあるから、之を借り出して時々は教育幻燈會を催すとよい。なければ之を買はしてもよい。實物幻燈ならば更によい。資料としては旅行談なんか頗る面白い。村落の人に日光見物、東京見物、上方見物等をやらすのであるから相應に喜ばれる。普通教育には六つかしい事は勿論云ふべからざる事である。

衛生講話會 衛生の事の必要なるは云ふ迄もない。前に衛生と生理の事に關しては之々の事をしなくてはならんと云ふたが、之は地方の醫師をして衛生講話會を開かしめ幻燈等を利用するとせばよい。名士招待講演會 名士を招待して地方に適切なる講演會を開くのもよい。然し之には餘り金をかけるのはいけない。之にかける大金

があるならば、他の永持性のある書籍とか幻燈とか蓄音機を買ふ方が大によい。地方を通る人とか、歸つて來た人とかを頼んでやる様にすれば、夫で澤山である。併し平生注意をせぬと好機會を逸するものであるから、特に茲に之を注意する。

其他補助教育の設備 夜學の如きは其一である。壯丁の教育の如きも又其一である。少し氣を附けると之も容易に出来るが、打やつて置くとか何等の進歩もなく、村落は退歩に退歩を重ねる事となる。

四二 教師に御願

小學校の教師は地方の部落に於ては第一流の人物たり又先覺者であるから、其部落に對して確かに社會教育の必要を適切に感じて居らるゝと信ずる。又都會の教育に關係して居る者でも、家庭との關係とか市井の氣風とか云ふものに對しては大なる缺陷を認めて居らると

と信ずる。夫で兎に角社會教育が學校教育と相待つて立派な人を作らなくてはならんと思つて居らるる事と思ふ。そうして一部の人は學校以外の者をも相應に教育してやらなくてはならんと感じて居らるゝに違ない。余が學校の先生に御願したい事は次の事柄である。

- 一 教材を社會生活に適切ならしむる事
- 二 生徒の心身の活動力を大にする事
- 三 學校を以て教育を完結せるものなりとの感を去る事
- 四 普通學を教ゆるに際して専門的の教授を爲す考を去る事(此弊は小學校より以上の教師に多くある所ではあるが)
- 五 學校の生徒を收容する地域内の社會教育機關を施設し又は利用して實蹟を收むる事

是迄に種々の事を説き立て居れば余が茲に之を擧げて社會教育の上にて爲さざる可からざる事なりと云ふ事は直に會得せらるゝ事

なるべければ、うるさく詳述せず。

四三 代議士に御願

代議士と
社會教育

國民の選良を以て任せらる人々であるなれば、選舉區民を啓導する
丈けの心掛けはあつてよいものである。諸子は選舉間際になつて金
錢の力で以つて投票を買収して出て居る。殆ど凡てが左様である。
唯運動者をして買収の衝に當らして自分は失格をせぬ事のみ力め
て居る。檢舉せられた者は巧に買収せなかつたと云ふに過ぎぬ。之
では選舉界も大に腐敗したと云ふより外はないが、平生地方開發のた
め何か仕事をして置けば、夫れで選舉の運動にもなる、地方のためにも
なる。之が一番望ましい。多くの人は選舉權の如何なるものなるか
も知らぬ位であるから斯様になるのである。選舉權をも少し尊重せ
しむる必要があると思ふならば平生選舉區を巡つて社會教育の教師

となつては如何。

其他の人
人に

其他一般人の爲すべき事は如何なる事柄であるかと云ふ事は、上來
の事を讀み來つた人には充分會得せられる事と信ずる。又會得され
ない人は自ら進んで研究し實施すればよいと思ふから、同じ様な事は
繰返す事をよして茲で筆を擱く。

四四 結論

吾人は上來自己の信ずる處によつて、社會教育の惡魔を擧げて之を
拂はざる可からざる事より論じ起して、更に社會教育の眞正の目的を
達するには知育情育意育に於ては如何なる事を爲し、各科に於ては又
如何なる心得を要し、又各人は如何に行動すれば宜いかと云ふ事に説
き至つた。吾人は此所に於て感謝す。此冊子を通讀せられたる諸子
は書中に採るべき所あらば、そのものに就いては何時かは必ずや採ら

必要なる
なり

手を下す
此書を
焼く

る人であると信じて居るから。又此書が不幸にして一顧の値なきものとして葬られて仕舞つたならば、此書は世の中に存在する必要がないものである。余は現在我邦の状態に嫌たらずして、此書の必要を認め、之を公にした。然るに社會は之を必要とせぬ程に余よりも進んで居るのであるなれば、余は又何をか云はんやだ。

余は不幸にして、余の觀察と要求が誤つて居て、此等の冊子が一日も早く火中に投ぜられん事を欲するのである。之が實に社會に取つての幸福であるからである。然し社會は漸次に此要求に耳を傾けつゝあるのではないか。余は信ずる、此書を手にした諸子は必ずや何事をか爲さんとする人である。腕の鳴り鳴つて居る人である。されば進んで社會に手を下すか、將た又退いて此冊子を火中に投じて長く嘯くか。右するか左するか、決して立止つて居る事の出来ない人である。
社會教育の研究終

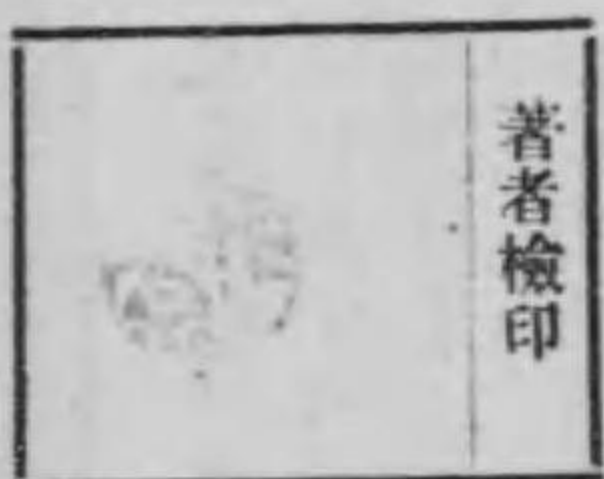
大正元年十一月十日印刷

(社會教育の研究「奥附」)

大正元年十一月十三日發行

正價金五十錢

不許複製



著者	相原熊太郎
發行者	曾根松太郎
印刷者	中野鏝太郎
印刷所	東洋印刷株式會社

發行所
賣捌所

東京市下谷區谷中町五
振替口座東京四八九一番
東京市神田區裏神保町
振替口座東京三〇八六番

明治教育社
上田屋書店

文 學 士
相 原 熊 太 郎 君 著

余を以て
小學校長たりしめば

好評 5 再版
四 六 版
二〇 二 頁
定價 五十 錢
郵 稅 四 錢

著者は社會學專攻の文學士也。今其豐富なる學識と實地の視察實際見聞とに基きて、自から小學校長とならば、何を爲すべきかを敘述して本書を成す。眞にこれ小學校員に對する他山の石に非ずや。未だ本書を手にせられざる諸君に敢て一讀をすすむ。

次 目

△緒論 △教育調査會の設立 △十年計劃 △大方針と每週計劃 △謄寫版の購入 △校友會の組織 △質問討論會 △學校新聞 △出版 △教材と町村勢調査 △人口統計 △尙齒會と年輪調査 △里程の計算 △文盲の無からしむ △日常理科 △郷土誌 △會と母の集り △學校圖書館 △巡回文庫 △學校博物館 △學用品の共同購買 △學校園の施設 △成績品の同覽 △父兄懇談 △自治思想の開發 △都會の小學校長たらば △結論

發 行 所
發 賣 所

東京市下谷區谷中町五番
振替口座東京四八九二番
東京市神田區裏神保町
振替口座東京三〇八六番

明 治 教 育 社
上 田 屋 書 店

最 新 刊

實 用 新 教 授 法

大元茂市郎君著

四 六 版
二 七 八 頁
定 價 六 十 錢
郵 稅 六 錢

著者は曩きに東京女子高等師範學校附屬小學校に職を奉じ現に熊本縣師範學校附屬小學校主事たり今多年の經驗を基礎とし近世教育の思潮を汲みて本書を著す。其所說穩健中正にして且つ極めて實際的也。以て各種講習會に於ける講習用書となすべく又獨學者は本書によりて教授法に關する一般的知識を學習することを得べし。請ふ愛讀の榮を賜へ。

發 行 所
發 賣 所

東京市下谷區谷中町五番
振替口座東京四八九二番
東京市神田區小川町一八番
振替口座東京一四一四六番

明 治 教 育 社
大 野 書 店

エ3U77

筆陣 堂々 態度 謹嚴

教育界

一冊廿錢 郵税一錢半
六ヶ月分 郵税共 一圓十四錢
一ヶ年分 郵税共 二圓十八錢
見本 郵券 二十錢

『教育界』は質に於ても量に於ても、**代表的教育雑誌**なりとは世の定評也。試みに最近の一
於ても優に儕輩を抜ける。教育時言佐々博士の時評、藤原冷泉氏の人物月旦、新保一村氏の柳暗花明、
を始めて三士代議士の論、横山健堂氏の史論、小學教育通俗教育修養泰西新潮茶話等、各欄に互り
垣末松氏の學術的論文、何人も容易に卷を離つ能はざるべし。且近時新に應問欄を設けて、讀者の
質疑に對する名士の解答を掲げ、又懸賞法によりて新刊書の批評文を募集する等、面目を一新し
たる事不尠されば、一度本堂々々たる態度と豊富なる内容と進
歩せる編輯法とに傾倒せざるはなし。宜なり本誌が月々多數の讀者を増加しつゝ、
來れ殊に從來教授や訓練の如き技術専門の雜誌のみを耽讀するものは、須らく本誌を讀みて其
の知見を開發すべし。

發行所 大賣捌所

東京市下谷區谷中町五
振替口座東京四八九一番
東京 東京堂 東海堂 至誠堂

明治教育社
北隆館 大野書店 大阪柳原書店

終